

Version 1

上月「楠木さんこんにちは、主治医の田中が手が離せないものですから、今後の治療について楠木さんと時間をかけて話し合うように言われてきました。」

楠木「そうですか、よろしくおねがいします。」

上月「楠木さん、田中先生からは病気のこと説明を受けていらっしゃいますよね、説明はわかりましたか？」

楠木「はい、大体わかりました。手術するか、薬で様子見るかでしょ？で、結局手術が必要だって話だったかな。でも手術すると肺に血の塊が飛んで苦しくなるかもしれないって、」

上月「田中先生は手術が必要って言ってましたか？」

楠木「うーん、なんだかいろいろたってたけど、結局そういう話だったんじゃないかな。」

上月「楠木さん肺に血の塊が詰まるのが心配っておっしゃってましたよね・・・」

楠木「うん、血の塊ができて肺に飛ぶと、死ぬかも知れないって、苦しいんですよ。」

上月「はい、たしかにその危険はありますけれども、しっかり予防しますし、もちろんそうなる人は少ないですよ。命に関わるような肺塞栓が起こる確率は 2% 以下だと思います。ですから、それほど心配する必要はないですよ。」

楠木「はい、わかりました」

上月「楠木さんとしてはどんな治療を希望されますか？」

楠木「うーん、先生におまかせします。」

上月「薬で様子見るのと手術、どちらがいいですか？」

楠木「そんなに心配しなくていいなら手術がいいんじゃないかな。」

上月「そうですか、では手術することにしましょう。その方向で田中先生と相談しておきます。お時間を取らせて申し訳ございませんでした。ありがとうございました。」

Version 2

上月「楠木さんこんにちは、私は医師の上月といいます。申し訳ないのですが主治医の田中が手が離せないものですから、今日は私が今後の治療について楠木さんと時間をかけてお話できればと思います。」

楠木「そうですか、おねがいします。」

上月「楠木さん、田中先生からは病気のことどう聞いていらっしゃるんですか？もしよろしければ、楠木さんのお言葉で教えていただけますか？」

楠木「うん、とにかくこっちの膝が痛くてあれ、変形関節症？変形性関節症っていわれています。薬で様子見るか手術か。で、結局手術が必要だって。でも手術すると肺に血の塊が飛んで苦しくなるかもしれないって、苦しいんでしょう？それは困るなあ。」

上月「変形性関節症って言われてるんですよね。田中先生は手術が必要って言ってましたか？」

楠木「うーん、なんだかいろいろってたけど、結局そういう話だったんじゃないかな。」

上月「
「そのようなお話だったんですね。それを聞いて、どういった治療がよいと思われましたか？」

楠木「うーん、よく分からないんで、先生方におまかせしますよ。」

上月「わかりました。では楠木さんにとって一番良い方法を考えたいので、楠木さんのお話をもう少し詳しく聞かせていただけますか？」

楠木「ええ。」

上月「まず、今一番お困りのことはなんですか？」

楠木「それはやっぱり痛いことだよ。とにかくね、痛いのが楽になったらいいなあってそれだけだよ。」

上月「そうですよね。お薬飲んでも痛みが辛いとうかがっています。痛みのせいで特に困っていることは何ですか？」

楠木「動けないことだね。お手洗いひとついけないんですよ。」

上月「お手洗いに行くのも難しいんですね。」

楠木「情けない・・・」

上月「・・・」

楠木「一人で普通にトイレまでさっと行けるようになりたいよ。」

上月「治療して、トイレまで一人で行けるようになることが目標のひとつでしょうか。」

楠木「そうだね。自分のことくらいは自分でできないと情けなくて。」

上月「自分の身の回りのことをご自分でできるということが大切なんですね。」

楠木「そうそう。家族にも迷惑かからないし。」

上月「さっき楠木さんがおっしゃっていた手術のこと、僕もう一回説明してもいいですか？」

楠木「お願いします」

上月「まずは誤解を解いて置かなければ行けないんですけど、田中先生も、僕も、『手術をするのがおすすりめ』とは思っていません。簡単に言うと、5分5分の気持ちなんです。」

「今の薬をもう少し調節して、車椅子とか、歩行器を使いながらなんとか自分で身の回りのことをできるように調整して家で過ごす、というのが一つの方法。リハビリの人にも関わってもらって、調整していけばもう少し動きやすくなると思うんですよ」「もう一つが、手術すること、ですね。楠木さん肺に血の塊が詰まるのが心配しておっしゃってましたよね……」

楠木「あの先生脅かすから……。心臓悪いから出来やすいつて、死ぬかも知れないって、苦しいんでしょ。」

上月「はい、たしかにその危険はありますけれども、しっかり予防しますし、もちろんそうなる人は少ないんですよ。割合として5%以下ですし、命に関わるのは2%以下つまり50人に1人以下だと思います。」

楠木「そうなの」

上月「それよりも楠木さん、僕たちは手術しても痛いのが良くなならない可能性が2割位あるから、そうならないかがむしろ心配なんです。手術して、寝ている時間が増えるから、痛みが良くななければかえって寝たきりになる可能性があるんじゃないかって、、、」

楠木「それは怖いなあ、寝たきりは困ります。」

上月「そうですよね。身の回りのことをご自分でできることが大切なんですもんね。」

上月「楠木さんが大切にしていることがよくわかりました。」「もう一回治療のことをまとめると、1)今の薬をもう少し調節して、車椅子とか、歩行器を使いながらなんとか自分で身の回りのことをできるように調整して家で過ごす、リハビリの人にも関わってもらって、もう少し動きやすくなる工夫をする。2)膝の人工関節の手術をする。可能性としてご心配になっていた命に関わる肺血栓を起こす危険性が2%以下ですがあるのと、手術をしても痛みが良くなならない可能性が2割程度あります。この場合も、薬の工夫をしたり、リハの人に入ってもらうことができます。」「ここまでのお話で何かご質問はありますか？」